

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月31日

事業所名 いろ縁びつ にじいろ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1階と2階にわかれ、スペースを確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	○			より良い支援をしていく為に、人数を増やしていきたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	スロープや滑り止めを使用している。	構造化は不十分であるので、改善していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		マットを敷いたり、角にクッションを付けている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日、昼礼をしている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		定期的に保護者に面談している。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		縁グループのホームページで公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者委員を通して意見交換を行っていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年1回の研修を行っている。	コロナで難しい面があるが、出来る限り行っていく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		定期的に個別支援計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		発達検査を行った方に結果をお聞きしている。事業所でも、アセスメントツールを利用し検討していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			その都度見直ししながら、適切な支援内容を設定していく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		日案を作成し、支援にあたっている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		どのような支援が良いと思うか意見を聞くよう努めている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		記録を元に固定化しないように工夫している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		ケース会議で話し合いながら行っている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		ボードに一日の流れや担当を書き、掲示している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	ノートを用いて共有している。	送迎等で全員揃わない場合もあるが、できる限り気づいた点を話し合っていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別の支援記録を記載している。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者との面談や職員間でケース会議を行って見直しをしている。		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月31日

事業所名 いろ縁びつ にじいろ

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が参加し、連携をとりながら支援を行っている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関と連携をとりながら支援を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関と連携をとりながら支援を行っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		保護者様より緊急時の対応や医療機関の情報を頂いている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		利用者様を迎える際、情報交換している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		利用者様を迎える際、情報交換している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		担当者と連絡を取り合い情報交換をしている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		児童館でリトミックに参加していた。	交流する機会が少ない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		会議がある時は参加している。	今後、検討していく。リモート会議等へも積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や連絡帳を用いて伝えるようにしている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○			保護者様と連携を図りながら必要な支援を行っている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に必要説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		個別支援計画の内容を説明し、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談や送迎時等に相談に応じ、支援を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			今後、検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		すぐに相談に応じ、職員間で共有している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		おたよりやアルバムをお渡しして様子を伝えている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付きキャビネットに保管している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		受け止めやすい伝え方に配慮している。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月31日

事業所名 いろ縁びつ にじいろ

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域のイベント等への参加を検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		定期的に訓練を実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		施設で訓練を行う他、防災センターで体験している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時の書類にて情報を得ている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギー表を作成し、掲示している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットを記録し、定期的に会議している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		会議で虐待に関する情報を話しあっている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		個別支援計画に記載し、保護者様の了承を得ている	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。